三分の二が離農せねば

ラワン方面の農構改善事業

足寄町の行政懇談会から

（第一面から）

小林町長　共同作業場は七割補助で民芸品を足寄の産業とすべくはじめたが、白老では家庭の主婦が内職で荒けずりをして一日一千五百円から二千円となっている、観光の面では、里見ガ丘公園で商工業者に金がおちるようにしたい、オンネトーへの上白愛の国道沿いにレジャー農園を考えたい、観光ルートの町として打つ手があり可能性があり悲観はしていない

不安な第二次構造改善

―雄大な構想だが現実には農民が去ってゆく、安定した生活ができるかどうか、第二次構造改善で農家の数が減った方が国はよいのでないか、安い労働力を使える、地域で参加するのは牛舎を建てたい人や機械を入れたい人で小規模の農家は入っていない、やめた方がよい、北斗パイロットに入れといっても二千万円もの借金で入ってやれるか

谷企画課長　不安はあるが、さりとて一千戸の農家がみなやめるというのではない、大規模経営でなければ太刀討ちできない、四年間凶作がなかったが、三十九年の凶作ではふつうなら八億円が三億円になった、土地条件に合った農業でなければならず可耕地をひろげたい

杉本農構改善室長　第二次改善事業は農家の考え方を農業委員会がまとめて答申したもので、総合対策、高率補助、低利長期のしくみとなった、北部地区では愛冠から陸別境いまでの二百七十一戸のうち百三十三戸が参加し他は名目参加でその三分の一が自立経営、三分の二は自立できない、目標は年百八十万円の所得で六ヵ年でなる計画で何戸かは離農しなければならない、一戸あたりの規模は酪農で二六～二七㌶で、現在は平均九、七㌶なので半分は離農せねば自立しない、一方では離農促進となるが他町村と違い規模拡大の余地があるが、四〇～五〇戸は離農せざるを得ない、戸数は減り一戸あたりの規模は拡大する、三月末に農林省の承認となるが、個々の農家の計画を修正し農協役員会で決定し振興協議会で決定して道に提出する、自立できない人には北斗パイロットもあり増反地もありすすめているが乗ってこない農家もある

借金のパイロットでは

―大規模草地の牧場管理が不充分ではないか

小林町長　四十六年度から三名定員化し一名技術者をおく

―バラ色の説明だが離農を促進している、三十億円の投資は大資本をもうけさせるだけではないか、農業構造改善は国の押しつけで百八十万円の所得で二千万円の借金は払えない、やめたい人をやめさせるだけでないか

谷企画課長　現在乳量一万二千トンにたいして雪印は四万五千トンの工場なので規模拡大のために話し合いをしており、離農はしてもらいたくない、農業をイヤな人はやむをえない

―百八十万円では元利金を払えば生活してゆけない

杉本農構改善室長　百八十万円は六年後の道民所得の平均額であって、パイロットは三百六十万円とみている、負債は一千四百万円とみており五〇㌶の面積で農林省は農業委員会に諮問したもので農家の意向を無視してはいない

―谷企画課長　農民から選出された農業委員会の建議が四年後に要綱となったが、法律をうまく使って利用せねばならない

バラバラな教育施設

―テーブル方式でないか必ずやめなければならない農家が出る、対策はどうか

谷企画課長　ルベンベのように木工団地を考えたいわずかだが割ばし工場にあつせんした例もあり、農民年金もある

杉本農構改善室長　改善事業のつぎの西部地区（芽登方面）には開拓地があるので規模拡大はできるが、東部地区（ラワン方面）はやりずらく、三分の二が離農せねばやれない

―過疎化に拍車をかけることになる、新たな工場もできず廃業している工場もある、まだまだ過疎化がすすむ、町立病院の医師が不足で職場の健康診断にきてくれない、確保してほしい

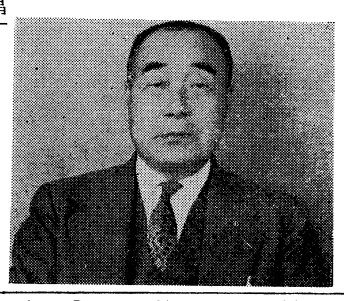
小林町長　このくらいの町村としては確保している方で、緊急医療センターは帯広と足寄になっている、こんご北大にかぎらず医師の確保につとめたい

―統合によって学校は立派になったが、直接の教育費は町は一人あたり百七十二円しか出していないで父母が二万円以上も負担している西小学校はことし改築ときいていたが、おくれるなら渡り廊下をつくってほしい、稲牛校の水が出ないが給水を考えられないか、武道館や青少年会館や各学校がバラバラに建てられては利用価値がない一カ所にあつめる意向はないか

―木村教育次長　教育費の配当予算は年々ふやしていっている、稲牛は調査して措置する、西小の改築の要望が強いが危険校舎の点数に達していない、渡り廊下は校長と相談する、学園地区については委員会において各層の意見をとりまとめ研究中である

若いものにも負けない

工藤勇作さん



足寄町議選へ　元議員登場！

○…一月十日の大誉地簡易水道工事完成祝賀式典の席上で、町議会建設委員長として招かれて万才三唱の音頭を指名された共産党の矢野寛一氏が『また工藤勇作さんが立候補するそうだが、いいかげんにやめて若い人にゆずるべきではありませんか』との発言にたいして工藤さんはさっそく本別警察署へ職権乱用と名誉毀損で告訴

○…この事件はその後実兄の矢野誠一氏から『申しわけない』とおわびがあり、警察では本人を説諭するということで、このほど取り下げにしたとのこと。

○…『共産党にしても八十才の野坂議長を先頭にしているではないか、年令ではない、若いものにも負けないでガンバリたい』と大いにハッスル。

○…三十八年から一期つとめたときは、おりからの高橋町長にからまる国道用地問題では毎議会長講一席で不正を追及、若い革新派議員といっしょになって町内を演説して歩いたもの。

○…全道枕木納材組合の副組合長から薪炭協同組合全道連合会理事長として、この業界では全道的な存在で重きをなし、地元では長いあいだ大誉地小中学校PT会長をつとめ、電力に恵まれなかった地域のために私財を投じて国鉄や道にはたらきかけて東部電力利用組合を設立してライトをもたらした人。

○…再度の町議選に臨むにあたっては、昨年いらい問題となっている議員の町との請け負い関係をさけるために「工藤林業」の経営を他人に譲って身辺を整頓したあたりはこの人らしいところ。

○…いよいよ間伐、除伐の時期に入った虎の子の町有林の運営、処理にはその道の豊富な体験、識見が必要だろうし、過疎対策としての林産資源の活用が重要な町の施策となっているときだけに、工藤さんのカムバックを期待する向もあり、『なんといっても産業振興と過疎対策、陽のあたらない谷間に暖い手を―特に社会福祉の充実と町民の愛郷心を呼びかけたい』と立起の決意を表明。

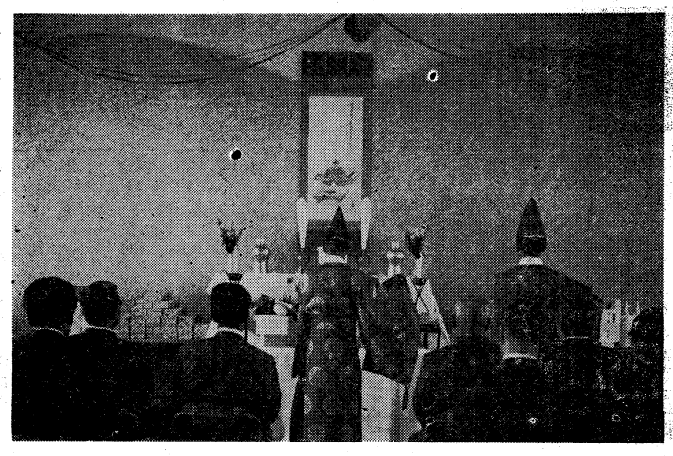
初の四条公祭

足寄調理師会

足寄町調理師会（長田栄会長、会員五十一名）では十四日午後二時から林業会館に会員、来賓など約百名があつまり、町ばかりでなく池北線ではじめての「四条公祭」の儀式をおこないました。

この儀式は、平安朝の初期の光孝天皇が料理に趣味をもつて自ら包丁をもつて宮中行事とし、四条中納言が鯉を包丁したことからはじまったもので、調理師の世界での年中行事のしきたりとなっています。

この日は会場に設けられた祭壇を中心に松山足寄神社宮司による修ばつのあと「大善」の横山実氏によって大鯉の包丁式がおこなわれて玉串奉典で式をとじ、長田会長、黒川祭典委員長からあいさつがあり、丹羽本別保健所次長、新沼足寄町商工会長、津村本別調理師会長からそれぞれ祝辞が述べられ、武田足寄警部補派出所長の乾杯の音頭で祝宴に入りましたが、町内一流の調理師による包丁さばきの接待ぶりでした。



農業委員選挙は七日に公示

四月の統一地方選挙を前にして、足寄町農業委員会委員の任期満了による選挙は、三月七日公示、同十四日投票でおこなわれます。

選挙による定員は十五名で、このほかに農業団体の推薦三名、町議会の選出二名の計二十名で構成されます。

現在の十五名は

近藤悦朗（足寄）
松田敎夫（足寄太）
清水秀雄（平和）
菅原武雄（中足寄）
南岡政吉（稲牛）
石井忠利（ラワン）
西村啓一（美里別）
畠　正吉（伊奈）
日置信一（鶯府）
小松文雄（中塩幌）
相馬竹夫（上利別）
中山　潔（大誉地）
岡　武（芽登）
桑尾　宏（喜登牛）
加藤熊次郎（開拓）

の各氏で、農村地区では町議選とのかね合いで人選がおこなわれており、場合によっては円満な話し合いで選挙をさけようという空気もあります。

このほかに現在、斉藤祐一（農協）大塚泰三（開協）大原茂（共済）湯浅義雄大塚正夫（議会選出）各氏

技術に生きる！
―あらゆる電気器具―
テレビ　ラジオ　レコード　ステレオ
ヒクター
有限会社
ミネ・デンキ
足寄劇場前　電話2642番

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二二二一番

春も近づいて参りました。衣替の
ーズンとなりました。春物既製品が
全部揃いましたので御来店御用命下
さい。
新入学用品もランドセルから高校服
までお早くお求め下さい。
新中女子制服、足高女子制服、別注
受付中。
株式会社　前田呉服店
足寄駅前商店街　電話二〇二二番

◎造材
マツカラーチエンソー
スチール　チエンソー
共立　チエンソー
◎造林
イリノ　共立
日立　ロビソ　刈払機
◎建設
日立　マキタ　神鋼
電動工具
◎酪農
◎モーアグラインダー（研磨用）
農業用絶対品！　神鋼印新型
◎チエンソー中古整備品あり
日本一長運斉各種刃物代理店
機械の修理は迅速低格！　誠実本位！
有限会社　鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　T 2307